

国連では2024年未来サミットが開催される予定です。
それにむけた未来世代宣言に対して次の提案をしました。

第4章 青少年と将来世代

今日の私たち人間の生活は、あらゆる意味で様々な危機に取り囲まれており、中でも気候危機は現在および中長期的にも急速な深刻化が懸念されている。

こうした状況を招いた要因として、世界人口の増加や、環境容量を軽視した無秩序な経済活動の拡大が考えられる。そして、その根底には私たち人間のあくなき欲望の拡大があるが、現在の危機を克服するのに必要な覚悟や責任感は極めて希薄な状況にあり、「今だけ金だけ自分だけ」といった反知性主義的な思考が世界中で広がりつつある。

こうした状況を脱し、青少年や将来世代が良好な環境と、人間としての不可欠な権利を享受できるようにするには、脱炭素時代にふさわしい考え方（理念・価値体系）と暮らし方（行動規範・原則）を人類の共有財産とすることが肝要であり、次世代にもこれを引き継いでいく必要がある。そのために、私たちは、『環境の危機の時代を生き抜く環境倫理』として、次の6項目を提案する。

- (1) 有限の認識：地球環境は有限であり、これまでの人間活動の拡大により、今後の活動の環境上の余地は限界に達しつつあることを認識する。
- (2) 抑制する知恵：何事も（資源の消費を伴う）無限の拡大・成長はあり得ないことを自覚し、知足の心で、自らの行動を環境が許容する範囲内に自制する知恵をもつ。
- (3) 循環の工夫：不要物の再利用や自然への還元を可能にする仕組みをつくり、すべてのモノを循環させる工夫に努める。
- (4) 共存する喜び：人は孤立しては生きられず、様々な人や生き物とも共にこの星で調和して生きていく喜びを持つ。
- (5) 利他の心：自己利益だけではなく、他の人の幸福や利益にも常に配慮し、尊重する心をもつ。
- (6) 公正の確保：「真実」を判断することが難しい時代の中でも、貧富、権力、ジェンダーの格差に係る公正を確保するよう常に努める。

2023年12月28日
NPO法人 環境文明21
代表 藤村 コノエ